

学生生活に関する実態調査(卒業生)報告書

令和 6 (2024) 年度

柴田学園大学

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	2
0. 卒業生属性	2
1. 現在の状況について	2
2. 大学生活について	4
3. 在学中の満足度について	6
4. 在学中の課外活動について	9
5. 在学中の奨学金利用について	12
III まとめ	13

I 調査の概要

この調査は、柴田学園大学学生委員会・学生課により、本大学の学生の生活の様子を把握し、今後の修学や大学生活の充実を目的とした基礎資料の収集を目的として卒業後 1 年経過した卒業生を対象に実施された。

調査期間

2025 年 3 月中旬～下旬

調査方法

卒業後 1 年未満の卒業生を対象とした。実施方法は調査項目をフォームに準備し、Web 上で回答を求めた。無記名で、個々人の結果を取り上げることはなく、個人のプライバシーに関わることはないように配慮した。

調査内容の構成

質問内容は、次の項目である。

- | | |
|----------------|------------------|
| 0. 卒業生属性 | 4. 在学中の課外活動について |
| 1. 現在の状況について | 5. 在学中の奨学金利用について |
| 2. 大学生活について | 6. 自由記述 |
| 3. 在学中の満足度について | |

有効回答数

30 名（健康栄養学科 14 名、こども発達学科 16 名）。調査対象者の卒業時（令和 6 年 3 月）の人数は 65 名（健康栄養学科 28 名、こども発達学科 37 名）であったので、この有効回答数は、対象卒業生の 46.2%にあたる。

集計結果

調査の集計結果は、アンケートの質問番号の順に表示していく。また、この集計結果で算出されたパーセンテージは、数値を小数点以下 2 桁で四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が 100.0%になるとは限らない。

II 調査結果

0. 卒業生属性

この調査に参加した卒業生の学科と性別の内訳は、下記の表に示した。

Q1 所属学科 Q2 性別

学科\学年	女性	男性	答えない	合計
1. 健康栄養学科	14	0	0	14
2. こども発達学科	15	0	1	16
合計	29	0	1	30

1. 現在の状況について

このセクションでは、卒業生の現在の勤務先での状況についての質問を行った。

Q3 令和6年4月に報告した就職先や進学先に変更はありますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 変更なし	26	86.7	14	100.0	12	75.0
2. 変更あり	4	13.3	0	0.0	4	25.0
合計	30	100.0	14	100.0	16	100.0

Q4 Q3で「変更あり」と答えた方は、現在の状況を教えてください。

選択肢	人数	%
1. 再就職した	3	75.0
2. 就職活動中(就職準備中)	0	0.0
3. 休職中	0	0.0
4. 進学準備中	0	0.0
5. 配属先の異動	1	25.0
6. その他	0	0.0
合計	4	100.0

Q5 現在の勤務先での職種を教えてください。（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 管理栄養士	6	20.0	6	42.9	0	0.0
2. 栄養士	3	10.0	3	21.4	0	0.0
3. 教員	10	33.3	2	14.3	8	50.0
4. 保育教諭	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5. 保育士	4	13.3	0	0.0	4	25.0
6. 事務従事者	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 販売業従事者	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8. サービス業従事者	2	6.7	1	7.1	1	6.3
9. 公務員(教員以外)	1	3.3	1	7.1	0	0.0
10. 大学院生・専門学生	2	6.7	1	7.1	1	6.3
11. その他(施工管理)	2	6.7	0	0.0	2	12.5
合計	30	100.0	14	100.0	16	100.0

Q6 現在の勤務先の種別を教えてください。(該当する番号1つ記入)

選択肢	人数	%
1. 医療・病院	5	16.7
2. 福祉・介護	5	16.7
3. 高等学校・高等専門学校	0	0.0
4. 中学校	2	6.7
5. 小学校	7	23.3
6. 特別支援学校	0	0.0
7. 大学・短期大学	0	0.0
8. 専門学校	0	0.0
9. 幼稚園(認定こども園以外)	1	3.3
10. 保育所・園(認定こども園以外)	1	3.3
11. 認定こども園	1	3.3
12. 金融業	0	0.0
13. 卸売業	0	0.0
14. 小売業(販売)	1	3.3
15. 農林漁業	0	0.0
16. 複合サービス(JA など)	0	0.0
17. 宿泊業	0	0.0
18. 飲食業	1	3.3
19. 接客業	0	0.0
20. 建設業	2	6.7
21. 国家公務員・地方公務員	2	6.7
22. 大学院生	2	6.7
23. 専門学校などの学生	0	0.0
合計	30	100.0

現在の勤務先の状況について、教員が10名(33.3%)、管理栄養士が6名(20.0%)、栄養士が3名(10.0%)、保育士が4名(13.3%)であり、卒業時に取得した免許や資格を活かした勤務が23名(76.7%)と8割弱であった。

種別では医療・病院が5名(16.7%)、福祉・介護が5名(16.7%)、学校関係が9名(30.0%)、幼稚園(認定こども園以外)、保育所・園(認定こども園以外)、認定こども園が各1名の計3名(10.0%)だった。

2. 大学生活について

このセクションでは、在学時の生活と卒業後の生活との関係性について調査を行った。

Q7 大学時代の授業（実習・演習を含む）は、現在どの程度役に立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. とても役立っている	5	16.7	2	14.3	3	18.8
2. ある程度役立っている	19	63.3	9	64.3	10	62.5
3. あまり役立っていない	6	20.0	3	21.4	3	18.8
4. 役立っていない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	30	100.0	14	100.0	16	100.0

大学時代の授業について、「とても役立っている」が5名（16.7%）、「ある程度役立っている」が19名（63.3%）で、役立っていると回答した割合は全体の24名（80.0%）であった。

Q8 それはどんな場面ですか？

- ・衛生面など
- ・研究の基礎知識
- ・栄養指導の時や患者にあった食種を他職種から聞かれた際
- ・資料作成等
- ・調理実習の際の衛生管理やアレルギー対応
- ・実験等を通じて得た、冷静かつ論理的に考える力
- ・献立作成時に、食材や味付けの被りや全体的なバランスを考えながら作る意識がついたことです。また、献立展開も大学でたくさん練習したため、すんなりできています！
- ・授業の構成の仕方、礼儀等について
- ・給食業務全般的に
- ・オムツ替えや、言葉掛けの場面
- ・指導案の書き方、授業
- ・関わる対象は乳幼児ではないが、その経験が個人の活動やレク活動の中で絵本の読み聞かせや歌を歌うなどの活動で役立っている。
- ・活動の計画も指導案のような書き方をするので役に立っている。
- ・日案の書き方、模擬保育
- ・生徒指導や学習指導
- ・子どもたちと関わる場面
- ・様々な人と関わる時
- ・初任研の時の講話内容や、模擬授業から授業準備のことなど
- ・授業をするとき
- ・色んな子がいるという意識、実習で教えていただいたこと、図工の時間になにを見取ればいいのかかわかる時です。
- ・教材研究、指導案
- ・大学時代に培った知識や経験が大学院でさらに磨かれていると思います！
- ・子供達の活動場面

Q9 在学中にもっと高めておけば良かったと思う力や、身につけておきたかった力についてお答えください。(複数回答可)

選択肢	人数	%
18. パソコンを使う力	12	40.0
9. ストレスコントロール力	9	30.0
15. 専門的知識	8	26.7
6. 柔軟性	7	23.3
7. 状況把握力	7	23.3
14. 一般的な教養	6	20.0
11. 課題解決力	5	16.7
4. 発信力	4	13.3
10. 課題発見力	4	13.3
16. 英語等の語学力	4	13.3
3. 実行力	3	10.0
12. 計画力	3	10.0
13. 想像力	3	10.0
1. 主体性	2	6.7
5. 傾聴力	2	6.7
17. 最後までやりとげる力	2	6.7
20. ディベート能力	2	6.7
21. リーダーシップ力	2	6.7
22. 資格の取得	2	6.7
2. 働きかけ力	1	3.3
23. 経営	1	3.3
24. 自分のメンタルの管理	1	3.3
25. 言語化する力	1	3.3
8. 規律性	0	0.0
19. プレゼンテーション能力	0	0.0
合計	91	

*項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

在学中に高めておきたかった力について、パソコンを使う力12名(40.0%)、ストレスコントロール力9名(30.0%)、専門的知識8名(26.7%)、柔軟性7名(23.3%)、状況把握力7名(23.3%)などがあげられた。パソコンを使う力は前回調査時も上位に含まれていたため、今後の教育改善に活かしていきたい。

3. 在学中の満足度について

このセクションでは、在学中の満足度について、教育内容、学生生活の支援、設備等の面から調査を行った。

Q10 教育内容（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 大変思う	8	26.7	2	14.3	6	37.5
2. やや思う	22	73.3	12	85.7	10	62.5
3. あまり思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4. まったく思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	30	100.0	14	100.0	16	100.0

所属していた学科の教育内容の満足度について、「大変思う」が8名（26.7%）、「やや思う」が22名（73.3%）であり、回答の割合は100%を占めた。

前回の調査では「大変思う」「やや思う」の回答を合わせた割合は全体の91.4%であったことから、大幅に向上しており、教育内容が学生に受け入れられていることが分かる。今後はさらに「大変思う」の割合を増やしていくことが重要である。

Q11 学生生活に対する支援（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 大変思う	11	36.7	2	14.3	9	56.3
2. やや思う	13	43.3	6	42.9	7	43.8
3. あまり思わない	6	20.0	6	42.9	0	0.0
4. まったく思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	30	100.0	14	100.0	16	100.0

学生生活に対する支援の満足度について、「大変思う」が11名（36.7%）、「やや思う」が13名（43.3%）であった。このように「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の80.0%であった。

一方、「あまり思わない」が6名（20.0%）、「まったく思わない」は0名（0%）と全体の2割が支援に対し不満があることがわかった。具体的にどのような支援に不満を抱いているのかを詳細に調査し、対策を検討する。

Q12 就職支援・キャリア形成支援（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 大変思う	11	36.7	2	14.3	9	56.3
2. やや思う	13	43.3	6	42.9	7	43.8
3. あまり思わない	6	20.0	6	42.9	0	0.0
4. まったく思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	30	100.0	14	100.0	16	100.0

就職・キャリア支援の満足度について、「大変思う」が11名（36.7%）、「やや思う」が13名（43.3%）で、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の80.0%であった。

一方、「まったく思わない」は0名（0%）だったものの、「あまり思わない」が6名（20.0%）と全体の2割が支援に対し不満があることがわかった。不満的な評価は健康栄養学科の割合が高く、専門職への就職が多い学科特性を踏まえ、早期離職など職業の選択にミスマッチがないよう支援が必要である。

Q13 図書館の環境（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 大変思う	12	40.0	4	28.6	8	50.0
2. やや思う	16	53.3	9	64.3	7	43.8
3. あまり思わない	2	6.7	1	7.1	1	6.3
4. まったく思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	30	100.0	14	100.0	16	100.0

図書館の環境についての満足度は、「大変思う」が12名（40.0%）、「やや思う」が16名（53.3%）で、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の93.3%であった。ほとんどの学生は満足しているものの、学生の要望を取り入れるなどさらに満足度があがるよう整備していく。

Q14 コンピュータ室の環境（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 大変思う	4	13.3	0	0.0	4	25.0
2. やや思う	17	56.7	7	50.0	10	62.5
3. あまり思わない	9	30.0	7	50.0	2	12.5
4. まったく思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	30	100.0	14	100.0	16	100.0

コンピュータ室の環境についての満足度は、「大変思う」が4名（13.3%）、「やや思う」が17名（56.7%）で、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の70.0%であった。

ノートパソコン必携にしたことや、学生ホールにコピー機を設置したこともあり満足度の向上に繋がったようだ。

Q15 その他大学の施設・設備（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 大変思う	6	20.0	0	0.0	6	37.5
2. やや思う	16	53.3	8	57.1	8	50.0
3. あまり思わない	8	26.7	6	42.9	2	12.5
4. まったく思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	30	100.0	14	100.0	16	100.0

その他大学の施設・設備の満足度について、「大変思う」が6名（20.0%）、「やや思う」が16名（53.3%）であった。このように「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の約7割であった。

一方、「あまり思わない」が8名（26.7%）であったことから、不満が集中している施設を特定し、改善に努める。

4. 在学中の課外活動について

このセクションでは、在学中の部活動やボランティアなど課外活動について調査を行った。

Q16 在学中に部活動や学友会活動を行っていましたか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	人数	%
1. はい	17	56.7
2. いいえ	13	43.3
合計	30	100.0

Q17 Q16 ではいと答えた人に聞きます。何に所属していましたか？（複数回答可）

選択肢	人数	%
1. 体育部	6	35.3
2. 文化部	13	76.5
3. 学友会・実行委員会	3	17.6
合計	22	

在学中に部活動や学友会活動を行っていた人は17名（56.7%）で、そのうち、体育部が35.3%、文化部が76.5%、学友会・実行委員会が17.6%で延べ22名だった。このことから、2つ以上の活動を掛け持ちしていることが分かった。

Q18 部活動や学友会活動は、現在どの程度役立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	人数	%
1. とても役立っている	5	29.4
2. ある程度役立っている	6	35.3
3. あまり役立っていない	4	23.5
4. 役立っていない	2	11.8
合計	17	100.0

Q19 それはどんな場面ですか？よろしければ教えてください。

- ・患者に栄養指導をする時
- ・多職種とのコミュニケーション等
- ・運営をするだけでなく、生徒に運営をさせる際に教師が事前に準備しておくことを想像して行えること
- ・絵本の読み聞かせの場面
- ・計画を立てて実行していくところ
- ・子どもたちの前で発言したり見本として見せる場面
- ・ストレスを発散する時
- ・いろんな人と関わる時
- ・計画的に物事を進めたり、タスクマネジネントする能力を高められたと思うからです
- ・人と人との繋がり
- ・発表会で同じことをするから

在学時の部活動・学友会活動について、「とても役立っている」が5名（29.4%）、「ある程度役立っている」が6名（35.3%）であった。このように「役立っている」と回答した割合は全体の6割程度である。また、役立った内容については記載が11件あり、在学時に経験した課外活動が卒業後も有益であることが分かった。

Q20 在学中にボランティア活動を行っていましたか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	人数	%
1. はい	16	53.3
2. いいえ	14	46.7
合計	30	100.0

Q21 Q20 ではいと答えた人に聞きます。どんな活動を行っていましたか？（複数回答可）

選択肢	人数	%
2. 子どもや青少年を対象とした活動(学校行事の手伝い、レクリエーション活動など)	9	56.3
4. 自然や環境を守るための活動(地域の清掃活動、リサイクル活動など)	5	31.3
6. 各種イベント等の運営スタッフの活動(地域のイベントなど)	5	31.3
5. 安心・安全なまちづくりの活動(交通安全活動、防災活動、防犯活動など)	1	6.3
8. ゴミ拾い	1	6.3
9. 電話相談	1	6.3
1. 高齢者・障がい者を対象とした活動(福祉施設での手伝い、見守り活動など)	0	0.0
3. 災害で被災した方を支援する活動(物資仕分け、募金活動など)	0	0.0
7. 国際交流・国際協力活動(発展途上国への支援など)	0	0.0
合計	22	

*項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

在学中にボランティア活動を行っていた人は16名（53.3%）で、そのうち、子どもや青少年を対象とした活動が9名（56.3%）で、それ以外は自然や環境を守るための活動、地域のイベントの運営スタッフが延べ10名だった。このことから、活動を2つ以上掛け持ちしていることがわかった。

Q22 ボランティア活動は、現在どの程度役立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	人数	%
1. とても役立っている	2	12.5
2. ある程度役立っている	9	56.3
3. あまり役立っていない	5	31.3
4. 役立っていない	0	0.0
合計	16	100.0

Q23 それはどんな場面ですか？よろしければ教えてください。

- ・いろいろな人と話す場
- ・保育をする上で全体的に役立っている
- ・クリーン活動の行事
- ・子どもとの関わり方
- ・いつもと違う場面でも臨機応変に対応できる力が少し身についていた
- ・個人面談の時
- ・子どもと関わる時
- ・なんでもやってみようと思う行動力に繋がった
- ・環境整備
- ・人と人との繋がり
- ・幅広く子供を知ることができた

在学時のボランティア活動について、「とても役立っている」が2名（12.5%）、「ある程度役立っている」が9名（56.3%）であった。このように「役立っている」と回答した割合は全体の7割弱である。

また、その内容について具体的な記載が11件あった。このことから、在学時に経験したボランティア活動が有益であることが分かった。これからも支援に応じていきたい。

5. 在学中の奨学金利用について

このセクションでは、在学中の奨学金の利用状況について調査を行った。

Q24 在学中に利用していた奨学金について（複数回答可）

選択肢	人数	%
1. 利用していない	9	30.0
2. 日本学生支援機構 第一種貸与奨学金	14	46.7
3. 日本学生支援機構 第二種貸与奨学金	12	40.0
4. 日本学生支援機構 給付奨学金	8	26.7
5. 柴田学園奨学金	0	0.0
6. 柴田学園みらい創生奨学生制度	0	0.0
7. 青森県保育士修学支援制度	0	0.0
8. 秋田県保育士修学支援制度	0	0.0
9. 青森県育英奨学会	0	0.0
10. その他	0	0.0
合計	43	

奨学金を利用していた人は30名中21名（70.0%）と全体の7割だった。その奨学金のうち日本学生支援機構の奨学金が最も多く、第一種（無利子）、第二種（有利子）、給付を利用した人は利用者21名中34件で、併用して奨学金を利用していることがわかった。

Q25 卒業生として、今後の柴田学園大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、お聞かせください。また、大学への通信欄としてもご自由にご記入ください。（自由記述）

最後に、意見・要望など自由に記述をしてもらったところ、9件（30.0%）の記述があった。

（一部抜粋）

- ・基本的な言葉使いや電話対応などある程度の常識を働く前に改めて学ぶ機会があればいいと感じた。
- ・就職が決まって住む場所が決まって落ち着いても、人生何があるかわからないです。臨機応変に対応できる力と、都会に進学する人は絶対に都会に慣れる場面を作った方が良いです。応援しています。
- ・先生方が生徒一人一人にすごく寄り添ってくれたことが本当に嬉しかったです。そのおかげで今の職場を見つけられたので本当に感謝しております。ありがとうございました。
- ・1年間過ごしてきて、働くことの大変さを実感しました。初めての一人暮らし、実家もすぐに帰れる距離でなく、友達も近くにはいないけど、同じく頑張っている大学の友達と繋がっていたことがとても良くて、メンタルも保つことができました。仲間は大事です。辞めたいと思ったこともあったけど、子どもの笑顔を見て「先生！」と呼ばれると頑張ろうと思えました。大変だけどやりがいのある仕事だと思うので、後輩の皆さん実習や講義頑張ってください。応援しています！
- ・かけがえのない仲間たち、信頼出来る先生方に出会うことができ、保育士の卵としても人間としても成長することが出来た場所でした。ありがとうございました。
- ・甘い世界でもないけれど、子どもたちと毎日授業するのは、楽しい。成長を感じられるし、自分のやりがいも感じられる。是非、後輩になってください。待ってます!!
何かわからないことがあったら、なんでも聞いてください。答えられることは答えます！

III まとめ

「1. 現在の状況について」「2. 大学生活について」「3. 在学中の満足度について」「4. 在学中の課外活動について」「5. 在学中の奨学金利用について」の質問内容別の要約をする。

最後に、これらの令和6年度の学生生活に関する実態調査(卒業生)の結果より考えられる、本学学生が卒業して約1年後の状況の特色をまとめ、今後の課題について述べる。

①質問内容別の要約

1. 現在の状況について

卒業時に取得した免許・資格を活かした就職が約8割という高い水準にあり、学生が専門性を活かしたキャリアを歩んでいることを示している。一方で、卒業後1年未満で何らかの理由により離職した卒業生も見られ、その多くが再就職先を決めているものの、卒業生に対するキャリア支援も引き続き重要である。

2. 大学生活について

在学時の授業が、卒業後「役立っている」と8割が回答しており、1. の設問で回答しているように、8割の卒業生が学科の専門性を活かした職業についていることとの関連が見られる。

一方で、在学中にもっと高めておけば良かったと思う力として、「パソコンを使う力」「ストレスコントロール力」「専門的知識」「柔軟性」「状況把握力」が挙げられ、卒業後の生活で何らかの不便さを感じていることがうかがえる。特に「パソコンを使う力」は常に上位に挙げられており、講義や課題などでパソコンを使う機会が多いにも関わらず、卒業後にどのような場面で不便さを感じているのか具体的に調査するなど、現状の課題を精査したうえで対応を検討していく。

3. 在学中の満足度について

所属していた学科の教育内容について、今回は全員が「大変思う」「やや思う」と回答していた。また、学生生活に対する支援については、8割が満足と回答しているが、「あまり思わない」や「まったく思わない」とする卒業生が2割いることから、今後改善を検討していく。

就職・キャリア支援については、8割が満足と回答しているものの、学科別で満足度に若干の差が見られる。このため、引き続ききめ細かな支援を継続する必要がある。

大学施設的环境については、図書館が約9割と高い評価を得ているのに対し、コンピュータ室については7割、その他大学施設については約7割が満足と回答している。その他大学施設の満足度が低いことから、学生の学習・生活を支えるインフラ環境の一部に課題があると考えられる。今後、不満の具体的な要因を調査するために検討を進めていきたい。

4. 在学中の課外活動について

在学中に部活動や学友会活動などの課外活動に参加していた卒業生（56.7%）の約6割について、その経験が卒業後の生活で役立っていると回答している。この結果は、前回の調査時と比べコロナ禍による活動制限が落ち着き、対面での活動機会が徐々に回復してきた状況が反映していると考えられる。

特に、ボランティア活動では、「子どもとの交流」など様々な人との関わりを持つ経験が最も多く、卒業後の生活に有効であったといえる。さらに、「自然や環境を守るための活動」や「イベント等の運営スタッフの活動」など、多様な分野で社会的な経験を積んでいたことが分かった。

5. 在学中の奨学金利用について

卒業生の7割が奨学金を利用しており、前回の調査時と同様、複数の奨学金を併用して利用している人が多いことが分かった。

これに基づき、学生に対しては、借りすぎることなく適切な貸与月額を選択できるよう指導を徹底するとともに、在学中から返還に対する意識づけを行う。また、返還が困難になった場合の救済措置などの内容についても、各種ガイダンス等において引き続き丁寧に説明し、学生の理解を促していきたい。

②最後に

今回の調査結果から、本学の卒業生は、卒業時に取得した資格・免許や学科の専門性を活かした職業に就く割合が高い水準にあり、在学中の授業が「役立っている」との回答も8割に上ることから、専門的な知識を基盤としてキャリアを卒業生が着実に歩んでいることが明らかとなった。これは大学時の学びが卒業後に活かされていることや教育内容の高い満足度とも関連していると考えられる。

教育内容や就職・キャリア支援については高い満足度が示されている。一方で、コンピュータ室やその他の大学施設に対する満足度が他の項目に比べてやや低かった。これらの施設の具体的な不満足要因を調査し、満足度を向上させるための対策を検討していく。

また、在学中にもっと高めておけば良かった能力として「パソコンを使う力」が常に上位に挙げられており、卒業後の具体的な場面での不便さが推察される。講義や課題を通じてパソコンの活用機会が多い現状を踏まえ、卒業後のニーズに基づいた対策が必要である。

在学中の課外活動については、コロナ禍の制限緩和に伴い、活動参加者の約6割が卒業後の生活で役立っていると回答しており、本学が長年培ってきた学友会役員や各行事の実行委員が中心となり諸行事を運営する実践活動が、キャリア形成の一助となっていることがうかがえる。特にボランティア活動における多様な人との関りや社会経験の有効性が確認された。今後も学生が中心となる活動に対し、教職員が適切な助言、指導を行い、支援を継続していく。

最後に、これらの結果を学生支援にさらに有効活用するため、回答しやすい期間の設定や質問内容の充実など、卒業生の実態調査全体の改善を図り、学生支援の有効な資料となるよう更に努めていきたい。

学生生活に関する実態調査(卒業生)報告書

令和 6 (2024) 年度

令和 7 年 9 月 1 日発行

編集：柴田学園大学 学生委員会・学生課

発行：柴田学園大学出版会

〒036-8530 青森県弘前市清原 1 丁目 1-16

TEL 0172-33-2289

FAX 0172-33-2486

<https://univ.shibata.ac.jp>